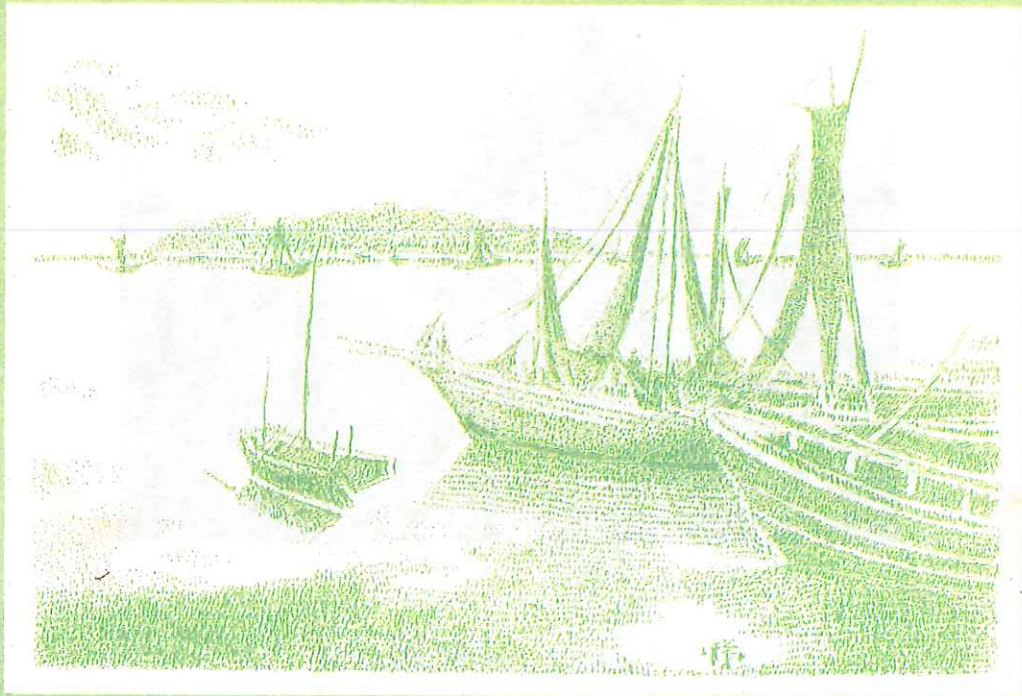


柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町113-1
発行人 武松 豊



土 竜 (もぐら) の囁き

四月初めの四国「大洲・内子・松山」方面への史跡訪問は大好評であった。残念だったのは中江藤樹先生の旧宅を訪ねられなかった事である。

藤樹先生は近江国(滋賀県)高島郡小川村で生まれ、高島藩家臣の祖父と共に伊予国大洲(愛媛県)へ移り住んだ。

郡奉行の要職を務めたが二十七才のおり、寡居の母に孝養を尽くすため帰郷し私塾を開いた。その塾の傍らに藤の大樹があったことから人々は「藤樹先生」と呼び、近江聖人と称えた。

十一才にて儒教に傾斜し、三十七才にして朱子学から陽明学へ転向。我が国「陽明学」の始祖となった。同学を学んだ多くの若者が明治維新に貢献したことは周知のとおりである。今なお、高島郡一帯の人々の道徳性は日本有数だと聞く。先生の遺訓は健在である。私は旅の途、大洲の地で道義性の低落した現在の世相を憂い「親孝行」の三字を胸中深く描いた。(武松)